# 飛翔

第１８１号
令和５年６月３０日(金)
発　行
台東区立浅草中学校
〒111-0051
台東区蔵前 1-3-4
TEL　03(3866)5169
HP
https://taito.ed.jp/swas/index.php?id=1320115

## ❶学 年 よ り

先週、中学校生活初めてとなる定期考査がありました。２週間前から学習計画表を使用し、学習計画を立て、日々の学習を振り返りながら、定期考査に臨みました。定期考査は自分の理解度を測るものです。考査前の学習はもちろん大切ですが、定期考査は、考査後にできなかった部分を振り返り、学習することはもっと大切です。定期考査が終わった今だからこそしっかり勉強し、積み残しを減らすことが、学力向上の鍵となります。家庭での学習時間を確保し、学力向上に繋げてほしいです。

## ❷学 年 よ り

現在、霧ヶ峰移動教室、職業体験、合唱コンクールの準備を進めています。中学入学後初の宿泊行事として、生徒は皆楽しみにしており、中でも部活動等単位の出し物の準備を意欲的に取り組んでいます。７月５日～８日、大自然を堪能するとともに、学年、学級、班、グループで協力し安全に行っていきたいと思います。また、職業体験では、体験先が決定し、マナー講習も実施しました。講師を務めていただいた元客室乗務員の方から、「仕事とは、マナーとは」のお話を聴き、体験に対する意欲を高めることができました。

## ❸学 年 よ り

５月２９日（水）から３１日（金）まで、中学校生活の一大行事である修学旅行が行われました。誰もが心から楽しみにしていた修学旅行。初日と２日目の朝こそ雨模様でしたが、その後は晴れ間も見えて、まさに修学旅行日和となりました。班行動では多くの歴史的建造物を見学し、古都奈良・京都の文化を十分に堪能しながら一人一人が自覚と責任をもって行動することができていました。まさに今回のスローガン「歴・文・学」を達成することができていました。解散式では校長先生からもお褒めの言葉を頂きました。

この修学旅行を通して、生徒は大きく成長しました。たくさんの楽しい思い出や感動を胸に、みんなで協力してさらに良い学年にしていきましょう！３日間お疲れさまでした！！

## Ⓐ 組 よ り

期末考査が終わり、ほっと一息の生徒たちです。Ａ組では交流学級で期末考査を受ける生徒、Ａ組内で期末考査を受ける生徒がいます。どちらも、初めての定期考査で緊張した数日を過ごしていたようです。定期考査の結果で一喜一憂せず、日々の家庭学習や中間考査の学習計画に繋げていけるような指導をしていきます。

学校公開や学級見学で小学生が来ることが増えてきています。中学生として胸を張る姿が見受けられる生徒たちです。

## SNS の使い方を考える

校長　渡邊　渉

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の話題は日常化しています。SNS は、インターネットを介して人間関係を構築できるスマホやパソコン用 Web サービスの総称です。自らの表現の場であったり、交友関係を広げていく場であったりと、多くのメリットを持っています。一方でデメリットもあり、社会問題になっています。誹謗中傷やいじめの温床になったり、事件や犯罪に巻き込まれるきっかけにもなったりしています。先日実施したセーフティ教室においても、蔵前警察署生活安全課の方が「安易に画像や個人情報を送付しない」「発信した情報には責任をもつ」とお話しくださいました。警視庁が発表した「令和4年度の犯罪情勢」によると SNS に起因する事犯の18歳未満の被害児童数は、1,733 人で、令和元年をピークに減少傾向にはなっているものの、依然、高い水準になっています。

では、SNS を安全に使うにはどうしたらよいでしょうか。「賢く安全に SNS を使うための知識・知恵」や「ルールを守って SNS を使える心」を子どもに育むことです。

＜浅中 SNS ルール（浅草中学校生徒会）＞

1、夜遅くにケータイやスマホを使わないようにしよう！
2、自分が言われて嫌なことを書き込まないようにしよう！
3、人の写真を勝手に投稿しないようにしよう！
4、個人情報が特定できる写真は公開しないようにしよう！

ヤング・テレフォン・コーナー▼

家庭、地域の方と連携をしながら、適切な情報活用能力を育成し、生徒たちがそれぞれの夢を叶えていかれることを願っています。

蔵前署の方から紹介された警視庁ヤング・テレフォン・コーナーの二次元コードを掲載しますので、困ったことが生じた際は活用してください。

７月の浅中しぐさ

## 教育実習

5/29 ～ 6/17 の3週間、教育実習を行いました。

技術科
新倉 琉生 先生

この３週間は２１年生きてきた中で忘れられないものになりました。何度も壁を感じることがありましたが、多くの生徒との会話の中や、先生方の授業の中から、たくさんのヒントを見つけることができました。そこから自分の授業に生かし、上手くいったと思う日が多くなっていきました。授業においては、まだまだ課題はありますが、私が今出せる力を発揮できたと思っています。この経験を生かし、これからも頑張っていきます。

教育実習は、「先生」という職業の大変さを知るとともに、やりがいを感じることもできた、充実した日々だったと感じています。初めて教壇に立った時は緊張しましたが、「生徒たちに大切なことを教えるぞ」と意気込んでいました。実際にやってみると、なかなか思い通りに授業が進まず苦戦しました。生徒たちの反応を見て、大切なことを学ばせるためには、工夫が大事だと感じました。思い通りにいかずに落ち込むこともありましたが、生徒たちが私に明るく接してくれたおかげで、無事に実習を終えることができました。ありがとうございました。

音楽科
永田 朝久 先生

## ３年 修学旅行

## 仁 義 礼 智 信

教育学者デューイは、学校のあるべき姿を「今すでにある社会に子供を順応させるのではなく、これから向かうべき社会への発達の『芽』を宿した場所」と考えていました。

つまり、教育は、大人社会のために子供を順応させるためにあるのでなく、子供が自ら考え、成長する力を養い、未来を変えていくためにあると。

このように考えると、我々大人は、絶えず学び、成長していかなければなりません。その絶えず努力することで、大人だけでなく、子供たち一人一人の尊厳が守られる社会を築き上げていかなければなりません。子供は大人社会の鏡ですから。